

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201944		
法人名	株式会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム 織りがみ		
所在地	〒510-8031 四日市市川北1-11-11		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町提出日	令和3年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和3年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族様が気軽に立ち寄りやすかったり気軽に外出できるように時間の制限を作っていない ・和洋中エスニック等、バラエティーに富んだ料理を提供。時にはグループホームの畑で採れた新鮮な野菜を使用している ・テイクアウトを利用して外食気分を味わってもらっている ・共用型デイサービスに取り組んでいる ・毎月第4日曜日に認知症カフェを開き家族様や地域の方と交流を深めている(現在休止中) ・入居者の方々に縁深い場所に外出するようにしている ・事業所のテーマである「信頼」を大切に、利用者様が自信を持てるような関わり方やここにいってもいいんだと思える居場所の提供に努めている(ホットハットの取り組み・目標達成表) ・月に1~2回関連デイサービス事業所との交流会を実施

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い道路に面した施設で、天井が高く広い空間の下、キッチンカウンター越しに職員の調理の音や匂いで食事が楽しめる広いリビングがあり、利用者や職員が明るく元気に過ごしている。コロナ禍で外出の難しい中、天気の良い日には近くの公園へ散歩したり、スーパーへ買物に出かけたり、ドライブも降りずに遠出する機会をつくり、利用者の健康維持に努めている。利用者の中には調理や食後の食器洗い等を手伝ってくれる方がおり制限しないで自立に向けて見守りながら好きなことをさせている。施設独自の理念「信頼」をスローガンに掲げ、ホットハットを通して利用者と職員が一緒になり、笑顔で接する活動を積極的に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した事業所のテーマを実践している。全体ミーティングや個別ミーティングにて理念の確認・共有をしている。(予定)	「いつまでも頑固にそしてお元気で」の基本理念を職員で共有している。黒子の立場で利用者の状況をうかがいながら介護、サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との避難訓練や災害時の相互協力、共用デイサービスの実施。又毎月第4日曜日に認知症カフェを開催している。(計画)	コロナ禍で認知症カフェは停止しているが、地域の人やボランティアの方が施設の畑や花壇、除草等に協力しており、その際にグループホームについて話をし交流を深めている。また地域行事や寄付の際にも状況を話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や運営推進会議を通して、地域の方にグループホームでの介護・取り組みをお伝えし認知症の人の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で開催は1回。開催できない場合は資料を作成して関係者に送付する形をとっている。	運営推進会議は現在開催されていないが、関係者へ資料を送付し、課題等は市役所介護課よりアドバイス、サポートを得ている。また日常のヒヤリハット、ホットハットを毎月纏めて報告している。	得られた貴重なヒヤリハット情報の内容を整理され対応できることを検討し利用者への安全、サービス向上に繋げていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	基本的には運営推進会議を通して適宜報告・相談している。	運営推進会議の他、電話連絡でケアマネージャーを通して行政(市役所介護課)から研修情報やサービス、施設の空き情報等を入手して相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の中で身体拘束に該当する関わり方研修や毎月のミーティングを通して学んでいる。言葉での拘束を日々しないような対応の仕方を個々の利用者にするよう検討を繰り返している。	2ヶ月に1回身体拘束MTgを実施している。気になる点は事前調査→テーマ設定→話し合い→スピーチロック等気づきの流れで安全面も配慮した話し合いが行なわれている。またリモートによる外部研修会(ユーチューブ)も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように注意をしている。年間研修計画の中で虐待の種類、その防止に該当する関わり方を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様がおられたの で後見人とのやり取りを通して、制度を利用 した場合の手順等について知ることができ た。月ごとの研修でも権利擁護について扱う 月がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	説明している。法改正(基準報酬・処遇改 善)の時は、負担額についての詳細な説明 をするとともに疑問については別に時間を 取り納得いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	入居者の方と個別に話しをする時間を取っている 。家族様とは、来訪時・ケアプラン作成時・運営 推進会議、電話等で聞き取りを行っている。	今はコロナの為家族の面会は少ないが、資 料の送付や電話連絡を行い、状況の共有を 密に努めている。また、利用者の受診時など を利用し聞き取りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個人面談等の時間を取り意見 を聞くようにしている。	管理者以外にリーダーもおり、仕事中でも職員の 介護上の悩みや意見を聴いて反映できるよう取り 組んでいる。職員同士でも気になったことは話が でき共有できている。中止していた職員会議は2 月から再開される予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	管理者とは別に法人役員が個別に時間を 取り個々の職員と面談をして意欲を持って 仕事ができるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	会社内・外の研修は会社負担にて行けるよ うにしている。会社内では、訪問研修・月間 研修等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	部会や医療・介護ネットワーク会議、研修等 に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、一週間ほどで職員からの聞き取りを行い、対応の基本方針を再確認するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の少しの変化や今後予測についてすぐにお伝えするようにしている。毎月、お便りを送るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームが最適かも含めて考え、利用者様の状態に応じて他のサービスを勧めるときもある。歯科、マッサージ等のサービスも追加が必要なら提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることは入居者・職員関係なくしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携医以外の病院定期受診に付き添ってもらいご本人の状態を知ってもらっている。また通信紙にて本人様のGHでの様子を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に加え親戚・知人の訪問、面会のための外出がある場合出来る限りのバックアップをしている。よほどの帰宅願望がない限り(主治医からの制限もない場合)、施設としての制限はない	利用者の情報を下に、年賀状作成を職員が手伝ったり、美容院によるカット支援、カラオケ設備(過去のニュースやビデオが収録)を使ったり、ドライブも行い馴染が途切れないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のそばに常に職員が寄り添い、利用者様同士が関わり合い支え合えるようにしている。利用者同士の仲の良さ等も考慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方で転居先施設からの問い合わせがあった場合等に情報提供するようにして相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族様・職員と話しをする時間を取り、個別ケアを取り入れている。個別記録は介護した内容だけでなく利用者が口にしたことも記録して利用者の意向がわかるようにしている。	要介護度は上がってきているが、利用者・家族・職員の日頃のコミュニケーションの中から利用者本人の意向を掴んでいる。また、利用者と職員によるホットハット活動も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本日の行ったこと、取り組んだことを趣味・生活リハビリ・運動等のジャンルに分けて色付きシールで簡単にわかるようにしている。大まかな傾向をとらえて、得意不得意を知ることが出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への聞き取り・ミーティングにて今後の取り組み等話し合っている。介護計画には家族様への説明時の面談内容も付記し、決定の経緯がわかるようにしている。	管理者、ケアマネージャー、家族による半年に1回の話し合いがあり、計画表を見直している。利用者のモニタリングの記録は職員全員が把握できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入している。個々のケアの実践等は、自由に記入できる形式としてご家族の反応等も色分けして記入しているので総合的に評価出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまで、自費にて訪問リハビリ、訪問マッサージを利用して、今必要なことをするようにしている。防犯センサーを離床センサーの代替として利用し安価に必要なサービスを入れられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターで行われる行事に参加したり、定期的に慰問に来てもらい多種多様な生活ができるようにしている。(計画としては)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の状態に応じて元々かかっていた病院など連携医以外にも受診対応することもある。連携医には職員が付き添って行っている。受診結果は家族様へ詳細に報告している。	歯科医とメンタルクリニックによる訪問診療を受け利用者の健康サービスに対応している。それ以外の掛りつけ医への受診は主に家族が同行するが結果報告を施設側が聴いて記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今該当なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室あるいは病棟に速やかに情報を持参して入院前の暮らしやADLが分かるようにしている。どういうケースなら退院後の受け入れが可能かを伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様・連携医と話し合いを行い、本人様の延命は望まない等の意思を確認し希望を最大限に叶えるようにしている。延命はしないと決めていても、いざとなると異なる判断を出す場合もあるので必要な話し合いを重ねるようにしている。	契約時に本人、家族と看取りを含む介護計画を立て、重度化した時は再度計画を見直し本人、家族の意向を尊重し対応を判断している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の各事業部の協力体制は構築済み。運営推進会議とセットにして、近隣の方にも参加して頂き防災訓練を実施している。災害時は事業者(会社)全体で対応していく。地域の方にも協力して頂く体制を強めている。	年2回の訓練を行っており、地震に伴う津波による避難訓練と夜間想定訓練を実施している。また夜間の訓練では職員1名のため、近隣、自治会への連絡支援についての課題と対応について取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神疾患由来の認知症の方も入居されているので生活チェックシート・既往歴等把握している。生活歴や性格を視野に入れ人格を尊重しプライドを傷つけない話し方、声の大きさ等日々気を付けながら実践している。	トイレの誘導や入浴の際は、プライバシーを保ちつつ、安全確保も配慮しながら命令調にならずその人にあった言葉で声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人生観や価値観を常に共有しその意志を推定していきご本人の意思決定を尊重していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活歴や習慣、趣味、性格などの背景を知り理解し出来る限り希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に沿って毎日の服装やヘアスタイルを決めて頂き整容している。男性利用者様には毎日電気シェーバーにてひげ剃りをして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることはして頂き楽しんで食事をして頂いている。個々の要望も取り入れながら様々な味付けの料理を提供し畑でとれた食材を使用している。テイクアウトも利用している	利用者の好むもの、旬のもの、庭の畑でとれた野菜も使い調理し、時にはテイクアウトも利用して職員と利用者が一緒に楽しく食事をとっている。調理や食器洗いを手伝う職員顔負けの利用者もみえ、制限しないで見守りながらさせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検査結果をふまえて必要な食材を摂って頂くように個別に対応している。定期的に体重を測りそれに合わせて食べる量を調整するようにしている。入浴後はスポーツドリンクを飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕口腔ケアを行い、義歯洗浄剤は職員が対応している。月2回、訪問歯科診療に来て頂き口腔ケア・治療を受けている。うがいの出来ない方は、専用ジェルを使用して口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄のタイミングを表で確認しトイレ誘導をしている。利用者様はトイレでの排泄ができています。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置している。	排泄は利用者のタイミングをチェック表で把握している。4名が自立でき、残り5名は誘導や介助で全員がトイレでの排泄ができています。リハビリパンツから布パンツに変え、改善された利用者もみえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ってもらっている。ご飯を雑穀米にしたり工夫し食物繊維を多めにとってもらっている。適度な運動や散歩も取り入れている。薬の副作用もあるので医師に適宜相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行い個浴である。曜日は決めてはいるが一日の入浴人数を少なくし、利用者様の気分や体調に合わせて順番を柔軟に入替えて、ちょうど良いタイミングでゆっくり入ってもらえるようにしている。	浴室は一般浴槽で入浴は週3回可能である。ゆっくりと個浴できるよう、利用者個人の体調を考慮し順番等を調整している。声掛けや音楽、入浴剤等で心地よく感じられる工夫を行っている。個別入浴の為、利用者の本音が聞くことが出来、貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後の目田な時間は本人様の希望で昼寝をしてもらったり、夜に安眠出来るように活動参加に誘っている。就寝前にアロマで心身ともにリラックスして頂きより良い眠りについて頂く。夜は状態に応じて早く休んでもらえるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイル・個人記録にてその時の症状を把握している。居宅療養管理指導を利用して担当の薬剤師と協働をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を活かした作品などをフロアに掲示している。庭の水やりや家事など各々の役割が定着している。カラオケ機器も設置して楽しめるようになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族様の意見も取り入れながら一緒に外食・買物等に出かけている。本人様の希望で身体を動かす為の散歩や日光浴をしている。	この時期は運動不足になりがちのため、天気の良い日には近くの公園へ散歩にでかけたり、スーパーへの買物やテイクアウトもしている。また、ドライブも降りずに遠出する機会もつくり利用者を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状送付のお手伝いをするようにしている。遠方の家族様には電話でのやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動的に過ごせる場所・静かに過ごせる場所の空間を作っている。テレビ・空調も別々に設置しており、入居者様のその日の気分や体調に合わせてるようにしている。またフロアには季節感のある飾り付けをしている。	天井が高く広い空間の下、キッチンカウンター越しに職員の調理の音や匂いで食事が楽しめる配慮されたりリビングである。入口近くには利用者全員のスナップ写真や書初め「うし」が掲示され、ちぎり絵や福笑いなども飾り付けされて笑顔で接する活動が展開されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置を変えたり和室やカウンターで、個別で過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人ご家族にアドバイスし、本人様が普段使いの物を持ってきてもらったり、写真を飾ったりして我が家の様に居心地良く過ごして頂いている。	室内は清潔でシンプルで過ごしやすい環境である。入居前のアドバイスにより、利用者、本人の馴染みのものや孫からの手紙や犬の写真等が飾ってあり居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を付け認識できるようにしている。利用者様のADLに合わせて介助バー、センサー等を使用するようにしている。寝起きの動作が安全に自力で行えるようにしている。		